

## 第1回 町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会 会議録

開催日時：平成23年5月17日（火）15：00～17：15

開催場所：町田市リサイクル文化センター研修室

出席委員：（敬称略）

細見正明、藤倉まなみ、百武ひろ子、杉山昌弘、稲木健志、粕谷羊三、高橋倫正、  
金田剛、高橋清人、大谷公二、高木康夫、佐藤正志、富岡秀行、金子忠夫、伊東  
和憲、小林美知、片岡慎泰、藤井修

傍聴者：19名

### 〈次第〉

（議事）

1. 委嘱
2. 開会
3. 市長挨拶
4. 委員紹介
5. 委員長選出、委員長あいさつ
6. 一般廃棄物資源化基本計画の内容説明
7. 今後の進め方（計画策定概要・次回日程）
8. 閉会

### 〈配布資料〉

資料1：町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会委員名簿

資料2：町田市一般廃棄物資源化基本計画（概要）

資料3：町田市資源循環型施設整備基本計画の位置づけ

資料4：町田市資源循環型施設整備基本計画策定から施設建設までのながれ

資料5：検討組織と内容（案）

## 第1回委員会議事録要旨

### 1. 委嘱

---

○市長から委員の委嘱

### 2. 開会

---

○司会進行については会長選出まで事務局が代行

### 3. 市長あいさつ

---

平成23年3月に「町田市一般廃棄物資源化基本計画」を策定した。普通は「一般廃棄物処理計画」というが、町田市の場合は「資源化基本計画」とした。この基本計画は2020年、今から約10年後の状況に対応する廃棄物の資源化をどうすべきかをまとめたもので、特に生ごみ、プラスチックについて計画を立てている。

本会議では、「資源化基本計画」を受け、「資源循環型施設整備基本計画」を策定するため、2013年の3月31日まで2年間をかけて整備の基本的な考え方をまとめ、更に用地も含めて検討していただく。

資源化施設の整備には、技術的な情報を共有し、市民の皆さん、委員の皆さんの共通の認識を得ることが必要であり、市民と市職員、委員の皆さんと市職員の相互信頼が前提となる。市民の皆さんが聞いて分かる言葉で、行政あるいは技術情報を持っている人はそれを隠さず、部分的に喋って一部を喋らないという事ではなくて、全体を開示しながら会議を進めるという事が「資源化施設整備計画」の推進力になる。

### 4. 委員紹介

---

○事務局より各委員紹介

○事務局及びコンサルタント紹介

### 5. 委員長選出、委員長あいさつ

---

○委員長選出

(事務局)

委員長は、委員の皆様の互選という事になっている。

(一同事務局に一任)

(事務局)

今までの基本計画の流れからよく熟知されている細見先生に委員長をお願いしたい。

(一同了承)

(事務局)

副委員長も選任するところであるが、今日は全員が揃っていないため、次回としたい。

○細見委員長あいさつ

(細見委員長)

職場である大学が小金井市にあり、焼却工場の立地の問題等でいろいろな市民検討会も参加させていただいた事もあって、町田市 of 減量等推進審議会で廃棄物の資源化計画に携わる事ができた。

その中で一番よかったと思うのは、プラスチックゴミの問題は、専門的、技術的で分かりにくい面が多かったので、市民の立会いのもとでこの審議会で実験をさせていただき、そのデータに基づいて、問題や解決の道も残されているという事がデータとしてあらわされた。かなり時間も要したが、結果的には実験を通じていろいろ議論させていただき、理解しあった。

審議会では、家庭ごみの100パーセント資源化という非常に強い各委員の意見があった。これを実現するためには、多くの事業者、市民、行政が協働していかないといけないというのが資源化基本計画の大きな目玉と思っている。

今回の施設建設も、いろいろな立場、地域でいろいろなご意見が出るかと思う。市民自らの責務、権利、事業者、行政それぞれの立場で議論していければと思う。2時間の委員会なので、できるだけコンパクトに多くの委員の皆様のご発言をお願いしたい。そのように心配りしていきたい。

## **6. 一般廃棄物資源化基本計画の内容説明**

---

○資料2「町田市一般廃棄物資源化基本計画（概要）」、資料3「町田市資源循環型施設整備基本計画の位置付け」を事務局から説明

(片岡委員)

本来は、減量が最初にあるべきだが、資源化という話だったので、どちらを上にするか悩んでいる感じがするが、きちんとしておかないといけない。例えば、資料2の最初には「この基本計画は、これからの町田市のごみの資源化や減量化」とあるが、基本理念には「徹底したごみ減量、資源化」。どちらかをすぐに決められる問題でないが、ある程度のコンセンサスを持ってやっていかないといけないと思う。

(細見委員長)

町田市一般廃棄物資源化基本計画の16ページに基本方針が書いてある。審議会の中でいろいろ議論し、迷ったところであるが、最終的には、発生抑制をまず第一に優先順位を統一しようという事になった。

(藤井委員)

排出抑制という事だが、人口は増えると考えているのか、現状どおりなのか。

生ごみの資源化の生ごみ処理機とは、どういう物か。今後は焼却処理はしないという事か。

プラスチック、1万トンのうち6千トン进行回収するという事は、4千トンは燃やすという事か。これは、温室効果ガスの削減に繋がっているのか。

(事務局)

人口は、10年後には2%増えると推計している。これは政策経営部が過去のトレンドから推計したものである。

生ごみ処理機は、家庭用と大型があるが、家庭用は洗濯機の一回り小さいような物である。

(藤井委員)

生ごみ処理機分の焼却はないか。

(事務局)

その部分の焼却はない。残りは、基本的にはバイオガス化していこうとしている。

三点目のプラの残り4千トン、容器包装の油汚れが取れにくい物やかなり使えない物がある。昨年の3月から3ヶ月間、家庭のプラを集めて実験した際、袋の中に入れて回収したが、袋を開けた段階で汚れ物が入っているのがすぐ分かる状態で、そうした物は、無理に洗って、プラに入れておこうというのではなく、燃やす事はできないか考えている。燃やすものがどうしてもゼロにはならない。

(藤井委員)

生ごみの焼却をゼロにするということが現実的な目標なのか。燃やす量を極力減らすのは分かるが、燃やさないという計画に沿って今後検討していいのか気になる。温室効果ガスの排出がプラスチックからだけだが、生ごみを燃やしてもCO<sub>2</sub>は出る。その辺が分からないので説明いただきたい。

(事務局)

生ごみも燃やすと出るが、国の温室効果ガスの算定方法では、生ごみは生物由来でもとからあったものを利用しているから増えないという事である。石油製品の場合は、全部地下に埋まっているものを掘り出して、燃やして大気に放散するので、増えてしまうという事である。

(細見委員長)

生ごみを100%燃やさずにできるのかは非常に現実的ではないという意見は、地域懇談会でも出された。審議会では、まず100%資源化という大きな目標を立て、達成するためにごみ処理機をできるだけ多く導入し、生ごみを資源化していこうとした。一挙に市民全員にいきわたるわけではないので、まず、ごみ処理機が導入できる部分がどのくらいあるかを見積る。資源化は、現時点ではバイオガス化しかないだろう。バイオガス化は、その残り1万9千トンという事で、かなり巨大な施設が考えられている。これに関しては、本委員会で議論していく。

バイオガス化のグラウンドをこの会合で勉強していただき、できないという事になれば方針変換しないといけないし、技術的にも十分できるという事であれば、その施設整備に向けて議論していくのをこの委員会で議論するという事である。

(高橋(清)委員)

この検討会では、資料3に書いてある清掃工場の建替え、生ごみのメタン化施設、プラスチック

クの圧縮施設、ビン・カン施設の主にこの4つについて、資源化基本計画の基本方針にのっとって検討していくということ。この範囲をこの委員会で検討するという事を最初に決めてもらわないと、議論が拡散すると思う。

(事務局)

例えば、現有施設を新しくするためには全く同じ規模、同じ能力は必要ないだろう、資源化するにはどんな施設が必要か、四点という事で検討していただきたい。検討の中で見直しも必要となれば、その四点の中で、入れるとか削るとかいう事が発生すると思う。それが資料4と5に書いてある。

(細見委員長)

議論の進め方として、この委員会が所掌する範囲をより明確にするため、資料4、5を基に説明していただき、皆さんの質問の機会を与えることとしたい。

○資料4「町田市資源循環型施設整備基本計画策定から施設建設までのながれ」、資料5「検討組織と内容(案)」を事務局から説明

(大谷委員)

基本方針の家庭からの生ごみの100%資源化は、なるべく堆肥にし、堆肥に適さない生ごみはバイオガス化するという事か。堆肥には塩分が相当含まれていると思うが、堆肥を実際に農地で使った長期的な試験データはあるか。

(細見委員長)

一般廃棄物資源化計画の41ページに言葉の整理をしてあり、堆肥化も、生ごみ資源化というところで言葉の整理をしている。堆肥と肥料化とは意味が違う。肥料化の安全性は41ページに解説してある。

塩分の影響に関しては、その当時の審議会の専門の後藤先生にお聞きしてもいいと思うので、事務局にはその専門家としての意見を調べていただくのでよいか。

(藤井委員)

メタンガス6割とあるが、通常、ガス供給に使われるのは何%か調べて。残渣がどのくらいあるのか、100%ガスにならないのではないのか、残渣をどう処理するのか、燃やす前に処理ができるかも調べて。

(細見委員長)

わかった。東京ガスの伊東委員から、簡単に答えていただければ。

(伊東委員)

埋立地から出てくるガスとほとんど組成は似ているが、6割を純化して4割はカットする、そういう設備が絶対に必要になる。

一般的にコンポストやRDFも約1割から2割が残渣物として出てくる。それも外してメタンガスとして使う場合は、4割は取り除いてメタンガスを精製する。単独でメタンガスを利用する施設を実験しているが、ガス会社の導管に入れる場合はさらに精度を上げるという課題がある。

(細見委員長)

主に6割がメタンでCO<sub>2</sub>が4割というのは、有機物をメタン発酵するとこの比になる。問題なのは一部、硫化水素が出るので、取り除いた上で利用するのが前提である。ガス配管にそのガスを入れ、各家庭で使われるというひとつの目標でもあるが、問題点は後日、技術の検討をさせていただきたい。

バイオガス化すると、残渣が1割、2割は出る。その処理は基本的に焼却になると思う。北海道では、コンポスト等いくつか方法があるかもしれないが、町田市状況からは難しいと思う。

その辺は、整備基本計画専門部会の方で技術的な議論をしていただき、それをこの検討委員会で議論するというスタイルを事務局としては提案したい。施設4種類に関し、どういう施設が必要か、規模、大きさ、それをどこに作るか、候補はどこが相応しいかというところまで、この2年間で決める。

(小林委員)

この4施設を作るための土地が必要であるが、ビン・カン・ペットボトルだけではなく、新たな資源化できるような物を提案し、それも施設計画に含めて議論するということか。

(事務局)

町田市に合った地域基本計画を作ればよい。新たな資源化物があれば、当然それを取り込んだ計画書を作ればよい。

(富岡委員)

一番の問題は、プラスチックを集め、それをリサイクルするための場所である。生ゴミに関しては、生ごみ処理機の導入が一番の課題だと思う。今年度予算は大型処理機が10台と聞いたが、市の生ごみ処理機の今年以降の継続計画を聞きたい。

(細見委員長)

減量等審議会でも議論した時点では、3千トンの生ごみを処理できる生ごみ処理機の導入がマキシマムだろうと。市の責務としておそらく予算とか見積もっていると思うが、この委員会でそれをやらないといけないのか。

(事務局)

この委員会の中では、そうした事は考えてない。事務レベルで粛々と進めていく。

(細見委員長)

10台が相応しいかよく分からないが、別途、市に注文や、いろんな意見を言わせていただきたい。仮に3千トンできるとしたら、あと1万9千トンどうするか、それを中心に議論していきたい。

たい。

(金子委員)

この委員会は施設計画を作っていくという事だが、この2年の中で、その建設候補地を議論して決めるのは難しいと思う。

清掃工場の建替え、バイオガスの施設、肥料化の施設、プラスチックの圧縮施設、総合資源化施設が計画の中にある。その候補地をこの中で検討していくという事になると、合意が無い中で、候補地が出てくると反対運動にもなりかねない。

(事務局)

現有施設が老朽化するなか、長寿命化だけをやって、次の施設の検討や候補地はこれから時間をかけてという事には繋がらない。現有施設を基幹整備しても、毎年8億、9億かかる。候補地の選定に踏み込まないと。

いろいろな資源化施設について、市民との共通の認識を持ち、情報を隠さない、信頼関係を持ちながら対応していく、素人が分かる言葉で話をする。この2年間、大変短いけど、候補地の選定は避けては通れないと考えている。

(高橋(倫)委員)

資源化施設をいくつか作り、資源循環型施設の計画を作る、現在の施設の長寿化計画があるが、結果的に資源化施設だけ作って、焼却施設は廃止するのか。

3月11日の東日本の震災のごみの焼却も出てくるだろう。町田市も東海地震、直下型地震が来る中で、そういうものを踏まえて考えてあるのか。

(細見委員長)

徹底して発生抑制、排出抑制をやったうえで、できる場所の資源化を行う。例えばプラスチックは、100%戻す事はできない。汚れた物は焼却せざるを得ないので、焼却施設が無くなるのは考えていない。

災害時の廃棄物の問題は、減量審議会でも議論していない。改めてこの委員会で議論してほしいと思う。今までに無い新しい視点なので、整備基本計画専門部会の方で検討をお願いしたい。

19名が同時に集まり、月に1回、2回とやるのはとても無理だと思うので、どちらかの部会に所属する専門部会方式を取ることに合意していただきたい。専門部会が最終決定ではなく、19名揃った検討委員会で、議論する。

(稲木委員)

町田市が所有している土地の一覧表を出していただかないと、建設の候補地の見当がつかない。

## **7. 今後の進め方(計画策定概要・次回日程)**

---

○今後の進め方

(細見委員長)

2時間のペースで守っていきたい。発言できなかった場合や意見、質問等は、会議後一週間以内に事務局の方にメールでお願いしたい。次回の資料に反映し、委員会の事前に資料を郵送する。

○今後の予定

(細見委員長)

第2回目は、6月30日午後5時から午後7時。場所は同じ町田市リサイクル文化センター研修室。

第3回目は、7月29日14時からの予定だが、最終決定ではない。

約一月に1回のペースで進めていく。2年間で20回余りと予想される。

(事務局)

第2回目または第3回目に現有施設を見学し、その後他市のプラスチック施設、バイオプラント施設の視察も予定する。

## **8. 閉会**

---

○細見委員長より閉会のあいさつ

3回目までは共通の話題とし、できるだけ共有したいという事務局の考えである。